

「御子の偉大さ」

コロサイ 1 : 15 ~ 17

堀田修一 25・3・9

I 「御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です」: 15。: 15~17の部分では、常に異端思想（御子についての間違った教え）を意識しながら御子の神性、先在性、創造者、世界の保持者、その目的であることが宣言される。人が本当に信仰の内容を考え始めるのは、その人の信仰が反対されたり攻撃されたりする時である。教会が聖書的信仰の富と素晴らしさに気づくのは、教会が危険な異端思想に直面した時。神はすべてを益とされる。正しい信仰は、どんな教えや状況にも対処できる土台である不変の聖書（神のみことば）に支えられている。この部分は、新約の中でも重要なキリスト論の箇所。擬人化された知恵が、永遠から全能者として立てられ、創造の時もその全能者の傍らで組み立てる者として活動していたことを告げている箴言8:22~31を背景として生まれたものと考えられる。箴言の奥深いみことば＝「主（御父）は、ご自分の働きのはじめに、そのみわざの最初に、わたし（御子）を得ておられた。わたしは、大昔に、初めに、大地の始まりの前に、立てられていた。まだ深淵もなく、水のみなざる源もなかったとき、わたしは生み出された（文字通りの意味ではなく、「メシヤとして任命し、立てたことの詩的表現」）。…主（御父）が天を堅く立てられたとき、わたしはそこにいた。主が深淵の面に円を描かれたとき、上の方に大空を固め、深淵の源を堅く定められたとき、海にその境界を置き、その水が主の仰せを越えないようにし、地の基を定められたとき、わたし（御子）は神の傍らで、これを組み立てる者であった。わたしは毎日喜び、いつも御前で楽しんでた。主の地、この世界で楽しみ、人の子ら（神のかたち＝ご性質に造られた人間）を喜んだ（新天新地で、これが再現される）」（箴言8:22-31）。「神の霊がその水の上を動いていた」（創1:2）御聖霊も共同の創造者。

1. 「御子は、見えない神のかたち（本質を表す、指し示すものとしてのかたち）」。御子キリストは、目に見えない神の本質、御性質を目に見えるかたちで啓示し、説き明かす方。「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられる（御父と最も親密に交わり結びついておられる）ひとり子の神（御子は神）が、神を説き明かされたのである」（ヨハネ1:18）。「御子は神の栄光（御性質）の輝き、また神の本質の完全な現れであり」（ヘブル1:3）。御子は人が見ることができ、かつ理解する形をとった神の完全な表象であり、啓示。コロサイの異端は、御子イエスを神とは認めず、神から流出してこの世と神との架け橋をする中間的存在の一つに過ぎないと主張していた。これに対し、御子イエスこそ神の唯一の完全にして究極の啓示、神ご自身であることが語られる。

2. 「すべての造られたものより先に生まれた方です」。異端に惑わされないようにギリシャ語プロクティストス（先に造られたもの）ということばを、パウロが使っていないことに注目すべき。18節にも出てくる「先に生まれた方」（原語：プロートコス）は、直接時間とは関係のない名誉や栄誉の称号。御子は万物の相続者、「任命された」支配者として独自の立場と栄誉とが与えられていることを意味する。

「生まれた方」とは、人間のように、生まれる前は存在しないという意味は、全くない。御子

は、永遠の始めから、御父と御子の関係。御父、御子、御聖霊の三位一体の神が存在されていない時はなかった。

Ⅱ「なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威（天使的諸霊力）であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました」：16。異端は、天使的諸霊力に関する理論を展開し、御使い、天使を礼拝することを要求していた（コロサイ2：18）。これに対し16節の事実を宣言することにより、異端の間違いが正される。天使は礼拝される存在ではなく御子によって造られた被造物。「万物は、御子によって（を通して、創造の御わざへの参与＝「わたし（御子）は神の傍らで、これを組み立てる者であった」箴8：30）造られ、御子のために造られました」：16。万物の創造は御子によってなされ、造られたものはついに御子のものとなり、御子に対する礼拝と御子を愛する愛のうちに、御子のご自身の栄誉と喜びを見出すために造られた。世界は、一切のものが御子のものとなるために造られた。「神は、御子を万物の相続者とし、また、御子によって（を通して、創造への参与）世界を造られました」（ヘブル1：2）。

Ⅲ「御子は、万物よりも先立って存在し（永遠の初めから存在される神）、万物は御子にあって成り立っています」：17。

1. 「御子は…その力あるみことばによって万物を保っておられます」（ヘブル1：3）。壮大で深遠な宣言。万物が御子によって造られただけではなく、現在、万物は御子によって保持されている。御子こそ全世界を意義付ける方。自ら造られた世界を、御力によって、はぐくみ、見守り、一つ一つを摂理によって導いておられる。動かない偶像とは違って、「今に至るまで働いておられる」（ヨハネ5：17）生ける御子なる神。摂理の信仰は、創造の教理と共に重要。摂理とは、神による世界の創造後の世界に対する神の保持（万物をその本性の通り存在し続けさせること）と統治（各個の被造物が、全体又は他の個物との関係で、神の目的に向かって役立てられつつ、配剤されること）。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています」（マタ28：18）。私達の知識で理解できない事も支配されている。

2. 万物は御子にあって「成り立っています」の原語は、「一緒に、共に」と「立てる、置く、進み出させる、踏み止まる、存続する」の合成語。つまり御子は、万物の一つ一つ、出来事の一つ一つを共に結び合わせ益とされる。ローマ8：28。共に働き、立て、ある時は進み出させ、ある時は踏み止まらせ導かれる。一つ一つが御子の御手にあって扱われ、つなぎ合わされて、御わざの完成へと向わせられる。御子は何もしておられないのではない。私たちの歩みの只中に介入し、私たちをご自身の摂理の中で扱っておられる。無意味な偶然というものはない。すべてに御子の御支配があり、何らかの意味（御計画・意図、罪に気付かせ悔い改めへの招き、御子の姿への成長）がある。待つこと、理解できなことも神に委ね神を信頼することを学ばされる。個人の人生も世界中の出来事も。神による意味のない「偶然」な事はない。

3. 私たちの頭で理解出来ない事にも、必ず神の最善の御計画、御支配、神の時がある。生ける神は今も働いておられる。そのすべての行程を私たちが知らないだけ。神のご計画が始められる時、まず私たちの心、思い、動機が扱われる。間違ったことをしている時、神の御旨ではないことを知らされ問われる。どこかで止められる。悔い改めて、新しく神との関係を確認して進む必要を覚えさせられる。私たちの罪深さは、やがて神に取り扱われる。示された時、悔い

改め主に立ち返りたい。偉大な神、御子は、サタンの攻撃を見事に扱いながら、完璧にご自身の御業を達成される。あらゆることに神の摂理、御支配を認めたい。神は歴史を支配し、私たちの個人の営みのそばにあって導いておられる。わからないこと、つらいこと、いっさいの背後に働く神の摂理に信頼し、恵みとまことに満ちた支配者である主に頼り、人を支配せず、人からも支配されず、神から与えられた自分の分を果たしつつ歩みたい。「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな（自分の狭い悟りの正義感で突っ走るな。早合点や先走りせず、落ち着いて神に頼れ）。あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる」箴言3：5，6。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ10：29。

祈り：万物を造り支配されている御子イエス様を信じ、信頼し、理解出来ない出来事の中で辛い時も主に頼り主に信頼して歩めますように。賛美「恵みのひびきの」をもって主を賛美します！